

宮古発

震災後初 養殖ホタテ出荷



宮古北部養殖組合が育てた養殖ホタテが震災後、初めて出荷されました。海水温が高めで推移したことから小

ぶりですが、今年中に出荷を間に合わせたいとの漁家の人たちの思いで、初日を迎えることができました。宮古産の養殖ホタテは年内いっぱい出荷が行われ、来年春からは大型のものを市場に出すことにしています。(12/6 ニュースエコーより)

陸前高田発

「奇跡の一本松」切り株掘り出し完了



陸前高田市で行われていた、「奇跡の一本松」の切り株を掘り出す作業が完了しました。切り株は保存処理をしたあと陸前高田市で

展示されます。切断後に残った根と切り株は高さ1.8m、横幅5m、重さも3.5トンある大きなものです。切り株は大船渡の業者で保存処理をしたあと、陸前高田市内に今後整備されるメモリアル公園に展示される予定です。(12/6 ニュースエコーより)

大槌で被災の蔵元 盛岡に新工場



東日本大震災で酒蔵などが被災した大槌町の蔵元、赤武酒造の工場が、盛岡に新築されることになり、9日、地鎮祭が行われました。大槌町にあった、赤武酒造は東日本大震災の津波やそれに伴う火災で、蔵などすべてが消失してしまいました。去年10月から



は、盛岡の醸造元「桜顔」の支援を受けながら生産を続けてきました。新工場は、盛岡市飯岡新田にあるおよそ1600平方メートルの盛岡市の市有地に建設され、工事は、今月中に着工し、来年3月末の完成を予定しています。(12/9 岩手日報 IBC ニュースより)

山田発

鮭大漁祈願まつり



県内の秋サケ漁は、不漁が続いていますが、山田町では、これからの大漁を願って、3年ぶりとなる鮭まつりが開催されました。山田町の鮭まつりは、震災などの影響でここ2年、中止となっていました。今年は、震災からの復興と、サケ漁

の大漁を願って3年ぶりに復活したものです。会場には、200匹もの雄サケが泳ぐ、14m四方のプールが用意されました。

サケのつかみ取りには、2人の女の子も参加、重さ3キロもある大きなサケを掴み挙げては、歓声を上げていました。又、まつりでは、出店も設けられ、地元の水産加工会社が普段の2割引でイクラや新巻鮭を販売。訪れた客の、人気を集めていました。

(12/9 岩手日報 IBC ニュースより)

宮古発

サケ直売所オープン



宮古市に年末恒例のサケの直売所がオープンしました。贈答用などの新巻鮭づくりに、と10日の

初日はオープン前から120人ほどが行列。津軽石川で水揚げされたサケがトラックから降ろされると、訪れた人たちはできるだけ大きいものを選び、品定めしていました。サケは不漁が続いていますが、津軽石鮭繁殖保護組合では「寒くなり漁も盛んになるのではないかと期待したい」と話していました。直売所は来年の1月末まで開く予定です。(12/10 ニュースエコーより)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122